



『塾選択の7か条』

—初級編—

正しく塾選びをするにはどうしたらよいか、
良い塾を見分けるための指南書

セカンドオピニオン共育アドバイザー／北岡 三和

2020/01/01

『塾選択の7か条（初級編）』

あなたの塾えらび、間違っていますか？

大事だと思いながらも毎日忙しいので、難しい教育書を読むのもついつい億劫になりがち。だからといって、塾を選ぶとき、単なる口コミで決めるとか、周りが行っているから…なんて容易にしないで、まず立ち止まって考えてください。

実は…… ↓

成績が上がって、志望校に合格、そのうえ、いい出会い

関西に、ユニークで面白い塾があります

これらの塾を見つけるためには、あなたも「目利き」になっていただきたいと思っています。そしてその方法を「良い塾選択するための7か条（初級編）」に基づき、解説していきます。このテキストは、今後、塾や予備校などを選ぶ際の指針となりますので、ぜひ最後までご精読ください。

目次)

◆良い塾を選択するための7か条

1. 塾長（トップ）の考え方一つで全てが決まる！
2. 第一印象はとっても大事
3. 企業化していたら安心マーク
4. 塾を取り巻く講師やスタッフも要チェック
5. 設備をはじめとする「勉強・環境」づくりに注目
6. 料金システムにはご用心
7. 活動内容を把握し、特長・指導方法をよく知ること

1. 塾長（トップ）の考え方一つで全てが決まる！

企業の中で、まず会社の指揮をとっているのが社長（トップ）です。企業活動は、社長のポリシーのもと、事業領域が定められ、行動指針へと繋がっています。

そして、目標を掲げ、達成するために計画を立て動いています。

塾でも同様に、塾長の考え方で塾は成り立ち創られています。当然、塾には、「塾長（トップ）」がいて、その方が塾を創られた（たまに違うケースもあります）のですから、“塾をこんな風にしていこう”とか“子供たちにはこういう風に教えたい、育てたい…”などの思いは、必ずあるはず。その考えがあいまい、金儲け主義、講師やスタッフに優しくない、そんな塾長だったらその塾へ通うことはあまり好ましくないかもしれません。

また、塾長先生には、大別して二つのタイプがあります。

①教育者としてとことん『教育』を追及するタイプ

②経営者としてのセンスが抜群で経営者に徹する人

あとは、①と②のバランスです。半々でいる人、教育者に重点を置く人、教育にも力を入れながら経営に若干偏っている…とさまざま。

どのタイプが良いのか、悪いのかは一言では言えません。何故なら、それは私たちが決めることだからです。と言うのは、塾を選ぶ際、選ぶ側の価値観が、存在します。

私が結論を出す前に重きを置いているのが、塾長先生もしくはトップの『人間性』を重視しています。ポリシーが明確であれば、その塾のカラーがはっきりしています。そして、ポリシーを強くもって、明確なビジョンがあるかどうかは、これから益々変化が加速するなかで、生き残りに勝てるかどうかの大きな鍵になり、とても大事なことです。

以前から塾業界が厳しい現状に置かれ、個性豊かに展開するのは当然という指摘もありました。

しかし、言うのは簡単。実際に現場で実践し、子供たちにどう影響をもたらせているのか、これは現場（講師）とともに塾長の手腕が問われるのです。

つまり、塾を断片的に見るのではなく、全体的に見て、塾長（トップ）の人間性を知ることが本質的なものの捉え方に変わります。

このヒントは、塾長先生のパーソナリティーが大きく左右しています。

例えば、塾業界の中でも塾長先生がいろんな経験をもっておられる方、例えば元〇〇であったとか、そのキャリアを活かしている方などがいらっしゃいます。その方たちは非常に発想が面白かったり、何事にもとらわれない自由な視点があり、ダイナミックに、ユニークな展開へと結びついています。取材中、強烈に印象深かった塾長先生も数多くいらっしゃいます。

2. 第一印象はとっても大事

人間の判断基準のひとつに外見があります。若い人は、異性を好きになるとき、まず外見重視、カッコいい、男前、美人、可愛い…などで決める人が多いですね。それを単純に間違っているとは言い切れないものがあります。なぜなら、直感が当たる（中身と一致）というケースもあるからです。外見も一つの情報。何年前かにそんなタイトルの本がありましたね。

しかし外見だけで決めるのも NG です。あくまでも中身も含め、トータルでみてほしいものです。

ここでは、『塾の外見』についてまとめてみました。

例えば、塾に電話をしたときのことを想像してみましょう。

これからあなたが入塾説明会へ行く日を決めたい、と仮説します。まず、誰がでるのか→女性なのか、男性なのか。どちらにしても「はい、〇〇塾です」という第一声、あなたの耳にどう響きましたか？ 電話は顔が見えませんが、なおさら塾の雰囲気を受話器から伝わってきます。さて、その時の印象は……？

次に約束の日が決まり、いよいよその塾へ訪問します。

「どんな塾なのかなあ？」とか「いい塾かしら？」など期待に胸を膨らませて行きます。そこで最初に出てこられた人は誰!? 塾長先生、あるいは事務局長、教室長…etc

そのあと、対応はどうでしたか？ ちゃんと納得するお話をしてくださいましたか？ そしてその方はあなたにどんな印象を与えましたか？

これらは大変重要なことです。

もし、何かよくわからなかったとか、嫌な印象、合わないような感じだったら…!?

そのとき生きてくるのが、第一印象。やはり、雰囲気も大きなキメ手になります。

細かい点になりますが、スタッフがどんな人たちなのか。それから建物、勉強する空間としてどうなのか。教室や受付、トイレ、ビル内だったらエレベータの安全なども確認してください。

清潔感が求められている時代のなかで校舎の新旧問わず、掃除が行き届いている、ちゃんと整理されているなども気になる点です。花が一輪飾られてあってもいいですね。そして、絵画や書道など飾っていたら、潜在的に子供たちの心を和ませ、感性を磨く素材だと判断してください。

あえてここで、こんなタイプの塾がいい印象だったという話しは申し上げませんが、自分で「チェック項目」をもうけて、チェックしてみることをオススメします。

みなさんは、事前にぐるなびなどでインプットした情報をもって「人気のお店」へ行きますよね。その感覚で、塾選びもチェックする項目を頭に入れて、ぜひ、入塾説明会などにのぞんでくださいね。

3.企業化していたら安心マーク

塾はもう昔と違って、家内工業的に塾をしていらっしゃる場所はめっきり減りました。それでも20年前は全国の学習塾は推定40000塾と言われていました。しかし、今でしたら、大手塾の教室が圧倒的に占めていて、当時のカウントのやり方と異なり、正確な数を断定するのは難しいのではないかと私はみています。恐らく、個人塾や中小の塾は激減しています。町のなかにあった〇〇〇塾の看板がなくなっていたり、駅前は大手塾ばかりになっていたり……。

一方、塾の生徒数という区切りで分けると、100人未満（ボリューム的に圧倒的に多い?）、100～499人（このあたりが関西は主流ですね）、500～999人（関西ではこのゾーンがわりと少ない）、1000人以上（1000人を超すのが関西ではどうも難しいようです。一つのボーダーラインです）。10000人以上超すと、テレビなどでお馴染みのみなさまもご存知のところとなります。

生徒数のことを書きましたが、実は人数が多い、少ないは関係ありません。しかし、一つの目安として人数が多いところは、当然『企業化』しています。

そして、往々にして、生徒数が少ないところはまだ『企業体質』になっていない印象があります（しかし、少ないところでも企業体質化しているところもあります）。

私たちが触れることができる企業体質では、『経営力』という点で判断するのが有効です。なぜこの話しを申し上げるかと言いますと、経営基盤がしっかりしているかどうかは、私たちに大きな影響があるからです。つまり、経営基盤がしっかりしていないと、もろに私たちに覆い被さります。具体的に言いますと、経営が苦しくなると、負担する金額を私たちに押し付ける傾向があります。また、万が一、塾が潰れてしまったら路頭に迷うのは私たちです

付け加えると、例えば、ダイナミックに色々な催しを実現できるというのは、経営基盤の強さの表れの一つともいえるのです。

そういった意味では、経営力も塾にとって命。特に、少子化で、なおかつ在宅学習の傾向が強まるなかで、塾の存続は大中小規模に関係なく切実です。そして、今や学校も潰れる時代ですが、そんな時代であるにもかかわらず、塾は健闘しています。企業化していたら、確実に「安心」とは言い切れませんが、企業体質のないところに比べると随分安全です。

まとめますと、塾の企業体質は、色々な側面で判断できます。なかでも、『就業時間』。

企業体質になっていたら、一般の会社と同じように朝に出勤して…という具合になります。そうすると、私たちが朝に電話をかけても通じる、あるいは面談も午前中に行える可能性があります。

次に後で詳しくお話しますが、講師をはじめスタッフの方がきちんとした研修を受けておられるかどうかポイントです。受けておられる方なら、行き届いた対応をさせていただきます。

その他、『サービス面』でも把握することができます。

あくまでも塾は民間の企業です（管轄が文科省ではありません）。しかし、だからといって、業態から過剰なサービスは好ましくありません。何事もバランスです。バランスのとれたサービスもまた必要な部分でもあります。

4.塾を取り巻く講師やスタッフも要チェック

塾の『要（かなめ）』はご承知の通り、なんとと言っても「講師やスタッフ（小規模のところはスタッフも講師を兼ねているところがあります）」に尽きます。

両者は、一番子供たちと、長い時間接する人たちです。そのキーパーソンである人たちが、イキイキしていなかったら、子供たちにも悪影響を及ぼします。つまり、（子供にとって）いい教育は実現できません。いやいや子供たちに教えて（＝働いて）いたら、楽しい授業も、分かりやすく教えることも、実現不可能です。

授業は、講師と生徒で築き上げるもの。そこから信頼関係が生まれ、尊敬の念が芽生えます。単にサラリーマン化したような講師だったら、子供はついていきません。よって、成績も伸びません。人が人を教えるのですから、当然、メンタルな部分が大きく関与しているのは当たり前のことです。

一般の会社でも、どんな職種でも、同じことが言えます。人の出入りが激しいところは、必ず“何か”あります。塾の場合なら、塾長先生に問題があるとか、講師間でいじめ？があるとかなどの原因が予測されます。講師の方々も同じ人間、嫌な職場であれば、当然、行動にもでできます。

いずれにしろ、「この間、あの先生に教えてもらっていたのに、もう違う先生？」という具合に変わっていたら、ひとまず要注意です。講師の方々の表情もよく、よみとってみてください。

それから、先程も少し触れましたが、講師の方々が「レベルアップを図る」ための研修を受けてらっしゃるかどうかも外せない点です。社会人としての研修、あるいはもっと子供たちに分かりやすく教えることができるようになるためのキャリアアップの研修など。

こういった研修を受けている講師と、そうでない講師とでは、歴然の差があります。ワンマンになって一方的に教えるだけの行動をとる先生は、今どき時代錯誤です。対応一つとっても、ちゃんと研修を受けていたら「洗練」されているはずですよ。

とはいうものの、残念ながら、これらのことを実践している塾はとても少ないように思われます。

塾は業界としてすでに成長段階を過ぎていますが、現実はずぐに研修を取り入れるなどの策を講じ変化を期待するのは難しいかもしれません。しかし、それでも、もうすでに早くから実践している塾も数多くあります。

まずは、講師やスタッフの方々の働きぶりを観察してみましょう。

5.設備をはじめとする「勉強・環境」づくりに注目

やはり、塾の最大の目的は『勉強する場』。ですから、当然のことながら、勉強する空間は、大切な要素と言えます。

空間といっても「中身」と「外観」があり、「中身」を重視している塾では、徹底的に『勉強できる空間づくり』に取り組んでいます。

例えば、こんな話もあります。

他の生徒に迷惑をかけるような生徒がいたら、話し合いのうえ、退塾してもらおうケースがあります。これは一見、『厳しい塾だ』という印象が持たれるかもしれませんが、ある意味正解です。

というのは、よく「塾に通わせているのに成績が伸びない」とか「せっかく塾に通っているのに授業を妨害する人がいる」という声があり、それに対しての塾側の対応の一つだからです。

授業を妨害する生徒のなかには「お金を払っているから好きなようにしても構わない」という勝手な考えで塾を私物化しています。しかし、一方で、節操のない塾は、そんな生徒を野放しにしているケースもたまにあるようです。

他の人に迷惑をかけ、「やめてもらう」という判断を下すことは、大変、勇気のいる作業です。

本音のところ、ビシ！っと、言いたいところでもあるのですが、言えない塾側の事情も、残念ながら、あります。

さて、最近ではストレスを抱える現代人にとって「リラクゼーション」に関するビジネスが盛んです。エステティック、フィットネス、アロマセラピー、足つぼマッサージなど、心の時代を感じずにはいられません。そのほか、難波や梅田に行くと、オシャレな建物もいっぱい。いかに人間にとって空間は、心理面に大きく関与するのかがうかがえます。

塾も環境づくりは重要課題と捉え、生徒が気に入るような、あるいは気分がリラックスできるような空間を意識して創る塾も増えてきました。

具体的には、受付から従来の「塾」というイメージを覆すスペースになっていたり、音楽も流

れています。また、昔のような机やイスが茶色一色ではなく、ブルー・ホワイトなど落ち着いた色ややさしいイメージをもつ色調に変わってきています。他にも自社校舎に限っては、まるで私立の学校に来たようなステキな建物のところや、元画廊のスペースを使った校舎もあります。

逆に、たとえ校舎は古くても、掃除が行き届き、設備もきちんと整備されていれば OK です。

このほか、ミニ図書館をつくったり、絵画が飾ってあるなど、子供たちの情操を刺激するスペースを設ける塾も増えています。

6.料金システムにはご用心

以前、消費者センターを取材した時のこと。塾のクレームで最も多い内容は、『料金』に関することでした。これは、最初からだまそうとする塾側が悪い場合と、消費者が勘違いをしていたケースなどさまざまです。

後で、問題が起こっても水掛け論になってしまうので、『通塾する前、契約内容はよく確認してほしい』と消費者センターの所長さんに教えていただきました。

とはいっても、前者の場合、巧みなテクニックで私たちに話しをするので、なかなか、見抜くことができないのが実情です。

後者の場合も「どこまで確認すればいいのか」という線引きも困難です。

ただ言える事は、「支払う金額と中身が伴う」か、どうかポイントです。つまり、高いから即、悪いと一概に言えないことも頭にいられておいてください。

先日、某塾の取材中、こんな話がありました。

以前、お子様を大手塾に通わせていたお母様が、その塾の三倍もの値段の月謝を払われていて、あまりの月謝の安さに驚かれました。因みに月謝が高いだけで、成績が伸びないので塾を移籍したそうです。

通常、塾の費用（中学生の高校受験の場合）は、選ぶコースによって金額はまちまちですが、だいたい入塾金は1～2万円、月謝は6000円（小学生・非受験組）～20000円（中学生）が一般的です。金額の設定は、都市部とそうでないところとで異なってきます。

これはあくまでも目安で、安くても意味のないことをしていれば、ムダなお金を使っているようなもの。また、教育現場でどうしても必要なコストがかかる場合は、若干、割高になっています。

トリックの一つとして、何でも『オプション』のところは、要注意です。ベースが安いので、安心していたら、「あれもこれも必要」といってどんどん加算されて、気がつけば、“えっ”と、ビックリするような金額になってしまうパターンです。

それから『合宿』も要注意です。悪い塾にしてみれば、ここぞとばかりに「高額な費用を請求できるチャンス」なのです。

いくら塾とは言え、普通に考えてください。ホテルに泊まったら一泊いくらになりますか？、民宿で食事付きならどれくらいですか？ 通常の『相場』に合わせて、検討されてみるのも手です。

例えば、某塾の中学三年生を対象にした6泊7日の費用は80000円（宿泊は民宿でしかもイベント付きです）。逆に同じ条件にもかかわらず、なんと「勉強のみで20万円」かかるところ

もあるのです。そんな塾なら注意してください。

とにかく**お金はトラブルのもとですから慎重に**。

7.活動内容を把握し、特長・指導方法をよく知ること

塾の事業領域は、本業（塾部門）のみだけのところと、多角経営をしている塾と、2つのタイプがあります。塾の多角経営は、だいたい教育産業を主体にされていて、教材づくりやセミナーなどの研修関連、出版、印刷、イベントなどの企画、旅行…等、多岐にわたります。たまに異業種に参入しているケースや副業的に全く違う分野で何かしてらっしゃるところもあります。

塾の経営基盤が大切だと述べてきましたので、やはりみなさんは、お子様が通う塾のワークフィールドには、ほんの少し関心を寄せてくださいね。

実際の現場レベルでみると、勉強オンリーのところもあれば、多彩に行事やイベント、合宿などを催す面白い塾もあります。

取材を重ねていて、本当に「へえー、こんな体験学習ができるのか？」と思わず唸ってしまうほどの、ユニークなイベントや合宿をしている塾もたくさんあります。

つまり、何が言いたいかというと、家庭、公立の学校では体験できないことを塾が行っていて、そこに「塾が行う催し」に価値があるということです。

付け加えると、色々なことを経験させることで、子供たちは興味や関心への開花、人生の良い肥やしになっていきます。

さらに、子供の潜在意識のなかに眠っている「素質」を引き出すチャンスにもなるのです。

子供に早くから学ばせたいことへの提供や、多くの世界をみせてあげることは、我々大人の責任の一つでもあります。

そういった意味でも、塾自信がどんな活動内容をしているのか、必ずチェックしてください。

塾には、塾それぞれの文化があり、カラーがあります。それはみえないものだけに、捉えることは難しいのですが、はっきり息づいていることは間違いありません。

指導方法も一斉と個別、予習型に復習型、生徒をよくあてる、生徒参画授業など、十塾十色。

このあたりの具体的な内容は、大まかに入塾案内に紹介されていますので、じっくり読んで、わからない点はちゃんと聞いておいた方がベストです。

それから、よく塾が何をしているのか、父母の方に知らされないことがあります。

最近では、塾と家庭の風通しをよくするために色々工夫されています。例えば、塾新聞・電話連絡・連絡帳…などがオーソドックスです。

我が子の意見も大切ですが、塾の発信しているメッセージに耳を傾け、見てみると、「今、塾がどの方向を向いているのか」がよくわかります。

それから、塾の実績も気になる場所ですが、くれぐれも「からくり」があるので注意してください。

要は、塾内で、“○人合格”という表記ではなく、“○人中○人合格した”の方が信憑性のある数字でもあります。しかし、ここも情報操作をしている可能性もあるので、ご注意を。ポイントは、生徒一人ひとり、『全員』の現状の偏差値から、(偏差値なら)数字をぐんと上げることがで

きる塾、それが真の実力です。

いかがでしょうか。私は、これらの視点をもって、塾の取材にのぞんでいます。

この視点は何もライターだけでなく、みなさまも持つことのできるスキルです。『塾選択の7か条（初級編）』をベースに、をさらに進化させると、難易度の高い『中学受験の塾選び』につながっていきますので、ぜひこの機会にご理解いただければ幸いです。

なお、中学受験の塾選びについて、もう少し掘り下げ、『無料LINE@配信』で、引き続き、解説していきたいと思いますので、よろしければご登録ください。<https://jukueraibi.net/lineat/>

セカンドオピニオン共育アドバイザー／北岡 三和